（６）利岡小学校

学　　校　　長　濱口　明大
校内研究代表者　市原　百梨佳

１．　研究主題

「複式授業で学びを深める児童の育成」

２．　主題設定の理由

本校は平成３０年度まで複式学級を有する学校として、昨年度からは完全複式校として複式授業の授業改善や指導法の工夫等の研究を行ってきた。また、この２年間は思考力・判断力・表現力を育てようと研究主題を「言語活動を高め、心豊かな児童を育てる　～主体的な学びを育てる授業づくり～」とし、根拠を明確にして自分の考えをまとめたり発表したりする活動に重点を置いて、国語科の授業づくりに取り組んできた。結果として、平成３１年度の全国学力学習状況調査は国語・算数共に全国平均より 12 ポイント以上高く、３年生から５年生までが行った標準学力調査は国語で全学年 12 ポイント以上、算数で３年生は 2.6 ポイント、4，5 年生は 11 ポイント以上全国より高かった。12 月に行った高知県学力学習状況調査でも、各教科で県平均より 4 年生は 19 ポイント以上、5 年生は 12 ポイント以上と成果を上げている。

複式学級の指導については、これまで単式学級、複式学級を問わず「学習リーダーを中心とした学習」を取り入れ、主体的に学ぶ態度の育成を図ってきた。児童は、学習メニューによって見通しを持ち、自分たちで授業を進めるという意識が育っており、どの児童も学習に参加し真面目に取り組むことができている。しかし、集団解決である「とも学び」の時間が単なる答え合わせで終わってしまったり、考えや思いはあっても使える語彙や用語が少なくうまく伝えることができなかったり、表現力、対話力に関して課題が大きく指導の必要性を強く感じるようになった。また、複式授業のスタンダードの推進を掲げていたが、学習規律の指導や授業づくり、指導方法等、全校で取り組むとしていたことにばらつきが見受けられた。

そこで、今年度は研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、これまでの取組を継続させながらさらに学びを深めるための研究を進めていきたいと考え、表現力、対話力を高めるには、考えを分かりやすくまとめ、説明できる力が必要であり、その力を培うために、国語科を中心に取り組んでいくこととする。まず、国語科においてしっかりとした教材研究を行うこと、併せて学習リーダーの育成と「とも学び」の充実を図り本校の複式授業のスタンダードを確立することに重点を置き、そこから、他の教科、全教育活動へと広げ、児童の学力向上と定着を目指したい。

３．研究の進め方と方法

○企画 ── 計画立案（校長、教頭、研究主任）
○研修の進め方〈毎週水曜日　１５：００～〉
　第１週・・・校内研修　　第２週・・・職員会
　第３週・・・校内研修　　第４週・・・校内研修

４．研究内容

<u>児童につけたい力</u>　⇨

・学習規律　・基礎・基本の力
・思考力、表現力、対話力
・学習リーダーとしての資質

（1）学習規律の徹底

＊学習の準備

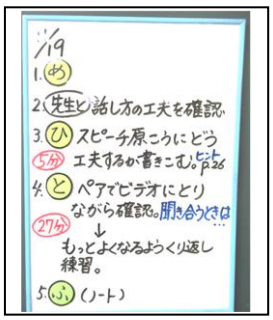
＊聞き方・話し方　…　「はい」の返事、はっきりとした声

＊ノート指導　　…　日付け、ページ、誰が見ても見やすいノート

（2）複式授業のスタンダードの確立と実践

①学習メニューの提示

・単元計画、学習メニューボードを掲示し児童に見通しを持たせ、学習リーダーを中心に自分たちで進めることができるよう指示を書き込む。



めあて　…�め
ひとり学び…㋒
とも学び　…㋑
まとめ　…㋐
ふりかえり…㋓
練習問題　…㋔

②学習リーダーの育成

・学年に応じて、国語科と算数科の「授業の進め方」を作成し活用する。

③とも学びの充実

・ICT（書画カメラ）やワークシートを有効活用する。

④板書計画と準備

・わたりを少なくし、必要な時に必要な時間だけ直接指導すればいいように板書計画を立て、授業が始まる前に準備しておく。

（3）国語科の授業研究―資質・能力を育成する複式授業づくり―

＊教材研究

＊研究授業（各クラス）…新学習指導要領に応じた指導案様式を新たに作成する。

＊見方・考え方を働かせる言語活動の設定

＊高知大学附属小学校より田中元康先生を招聘

＊西部教育事務所より池谷康史指導主事を招聘

＊複式授業づくり講座としての取組

・同領域による学習指導を扱うことで共通の言語活動を設定し、同時直接指導を可能にする。

・指導内容に軽重をつけるためのずらし

・言葉による見方・考え方を働かせる複式授業

（4）その他の教育実践

①確かな学力の習得

・加力の時間の充実

・家庭学習の習慣化と質の向上

・標準学力調査、全国学力学習状況調査、高知県学力定着状況調査の結果分析と学習指導方法の工夫と改善

・読書活動の推進

・新聞投稿など新聞を活用した学習

・発表朝会　…　1、2学期に各学級1回ずつめあてを持った表現活動を行う。

②心豊かな児童の育成

・キャリア教育の視点を踏まえた土曜授業や体験活動

・人権教育と道徳教育の充実

・挨拶運動（児童会、全校児童による縦割り班での活動）

・仲間づくり（各種行事、定期的な全校遊びの実施など）

③児童理解について

・QU テスト実施と分析（年に 2 回実施・分析結果を踏まえ指導）

・児童や学級の変容を継続的に追った実態報告の場と時間を確保し、共通理解をもつ。

④健康、体力づくり

・朝運動（わんぱくタイム）の実施…マラソン、縄跳び、ラジオ体操、一輪車、柔軟など

・生活がんばりカード

・歯みがきブラッシング指導、フッ素洗口

⑤その他

・地域との連携・協働（学校地域支援事業・・・書道、絵手紙など）

５．今年度の成果（○）と課題（●）

〈複式授業のスタンダードの確立と実践について〉

○学習メニューを見て児童が進めることができる。リーダーの経験を積むことにより学年に応じたリーダーとしての役目を果たしている。

○とも学びで、友だちの意見に疑問を持った時は、自分の意見を理由づけて言うことができる。

○ホワイトボードを活用し、共通点や相違点を明確にしてとも学びの充実を図ることができた。

○書画カメラを有効に使うことができている。

○書画カメラを常時活用し、スクリーンに書き込んだり、映像を指して説明したり児童が自ら活動できている。

●複式で進めるに当たって、常にずらしを考えて毎日仕組んでいくことは時間的にも難しさを感じている。

●意見を言いっぱなしになるなど、とも学びが単なる情報交換・交流の時間になっている場合がある。

●とも学びにおいて、自分の意見と異なる意見に対して反論したいときの口調や言葉遣いが気になる。中学年はまだまだ自己中心的発言がある。

●メモをすることに必死感があり、友達の意見を簡潔にポイントだけを押さえて書くことに課題がある。

●タブレット端末や電子黒板等の新規導入機器を書画カメラと融合させて効果的使えるように研修を深めていく必要がある。

〈国語科の授業研究について〉

○単元ゴールや指導計画を掲示して児童が見通しをもてる授業づくりができ、児童は単元を通して身に付けるべき力は何なのかを理解した上で学ぶことができている。

○講師の先生を招聘して話を聞くことで知識を深めることができた。

○講話等で、「見方・考え方を働かせる」ということがどういうことかを具体的に教えてもらえたことで、単元計画を立てる際や言語活動を設定する際に生かすことができた。

○「見方・考え方を働かせる言語活動の設定」については、複式の授業を進めるに当たってすべての単元において設定することは現段階では難しいが、研究授業等で意識して取り組んでいくことで日々の授業にも反映すると考える。

○複式授業づくり講座を通して、いろいろな先生方に本校の研究や取組を見ていただいたこと、授業について意見や助言をいただいたことなどよい機会となった。

●「見方・考え方」を働かせることができているかどうか具体的評価物がないと、複式の場合（人数の多いクラスにも言える）は見とることが難しい場合がある。